

令和3年度 第2回名護市地域公共交通協議会
議事録

【開催日時】令和3年8月31日(火) 14時～

【開催場所】名護市役所第1、2、会議室および WEB

【出席者】20 名

	組織	役職	氏名	出席	代理出席
会長	名護市	副市長	金城 秀郎	○	
副会長	琉球大学工学部	准教授	神谷 大介	○	
委員	内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室	室長	齋藤 洋一郎	○	
	内閣府沖縄総合事務局運輸部陸上交通課	課長	小谷 和史	○	
	内閣府沖縄総合事務局北部国道事務所	副所長	屋我 直樹	○	
	沖縄県企画部交通政策課	課長	金城 康司	○	
	沖縄県土木建築部北部土木事務所	所長	桃原 一郎	○	砂辺 秀樹
	名護警察署交通課	課長	金城 広樹	○	比嘉 聡
	一般社団法人沖縄県バス協会	専務理事	慶田 佳春	○	
	一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会	事務局長	津波古 修	○	
	私鉄沖縄県労働組合連合会	執行役員長	喜屋武 悟	○	
	沖縄バス株式会社運輸部業務課	課長	名嘉山 敬雄	○	
	株式会社琉球バス交通経理部統計課	次長	小橋川 共隆	○	
	株式会社北部観光バス観光事業部	次長	宮城 敦	○	
	株式会社丸金交通	代表取締役社長	運天 健	○	
	合資会社北部観光タクシー	代表	湖城 秀實	○	
	名護市区長会	会長	大城 將計	○	
	名護市老人クラブ連合会	会長	宮里 繁	—	
	名護市商工会	会長	山端 康成	○	照屋 貴大
	公益財団法人名護市観光協会	理事長	前田 裕子	○	
	社会福祉法人名護市社会福祉協議会	会長	野原 健伸	○	
	第一マリンサービス株式会社	代表取締役	熊坂 俊彦	—	

議題(1) 名護市地域公共交通計画策定の骨子(案)について

<質疑応答>

番号	委員	事務局
(1)-1	名護市や沖縄県で実施された既存の調査結果も使用して連携や整合を図ってほしい。 障がい者・高齢者・子育て世帯・外国人などの交通弱者のように公共交通のニーズが高いと考えられる方の意見は丁寧に拾っていただきたい。 骨子の地域公共交通に関する課題の体系整理イメージ(資料2 p10)における課題5の公的負担に関して、持続可能な公共交通に向けて公的補助を減らすことも重要であるが、クロスセクター効果も検討してほしい。詳細は「交通計画策定の手引き」を参照してほしい。(齋藤委員)	アンケート調査では把握が難しいと考えられる部分は、関係団体にヒアリング調査にて対応していきたい。
(1)-2	目標実現のための施策の検討(資料2 p11)に関して、時間軸別の整理(短期・中長期)について具体的には何年であるか。(野原委員)	「短期」に関して、5年以内にアクションが可能であるといった導入しやすい施策が考えられる。 「中長期」に関して、名護湾構想などの実現等に合わせた対応等、5年～10年程度を考えている。 「短期」「中長期」の2段階で整理していきたいと考えている。

<その他意見>

- ・ 高齢者・障がい者等の交通弱者はアンケート回答へのハードルが高いため、民生委員や包括支援センターの方にも、医療支援の有無や現在の課題を聞いてほしい。また、市外から通勤、通学する方や、現在公共交通を利用していない方への対応について考えておいてほしい。(神谷副会長)
- ・ 名護市は北部地域の中心地であり、近隣市町村からの移動等も多くあると思われるため、留意が必要である。また、沖縄県にて、昨年度より北部地域での

アンケート調査も実施しているため、結果の情報も共有しつつ連携して取り組んでいきたい。(金城委員)

- ・ 市町村をまたぐ路線もあり、周辺環境の変化も含めながら計画を検討されるということなので、各市町村との連携も図ってほしい。(小橋川委員)
- ・ 観光客にとって、良い公共交通のあり方について、沖縄県全体の流れや繋がりの中で名護市はどのようになるのかが気になっている。現時点では、名護市のみで考えているように感じたが、高速バスとの接続など、さらに広い視点での検討も必要と感じている。(前田委員)
- ・ 沖縄県全体を網羅して総合交通体系計画を作成することとしている。計画の中では、陸、海、空のすべてを含めた交通体系の計画という位置付けであり、北部・中部・南部・宮古・八重山区域すべての地域を対象としている。特に、観光においては乗り継ぎがシームレスに可能になることで、目的地にいち早く到着できる。このように、総合交通体系計画においては、観光面にも利益のあるような計画を進めている。観光客のみならず住民も含めて。MaaS（決済の一括化）等の要素も踏まえ、現在総合交通体系計画作業を進めており、来年6月頃に策定される予定である。

名護市の地域公共交通計画においても、観光客や住民にとって利便性の高い交通の実現に向けた計画策定を目指してほしい。(金城委員)

- ・ シームレスな公共交通体系の実現は、観光客のみならず居住している市民のためにもなると思っている。(前田委員)
- ・ タクシー業界の立場として沖縄県北部の中心地である名護市がより活性化することに期待している。調査を通じて様々なニーズが把握されると思うが、それらについて協議会の中でも共有してほしい。(運天委員)

議題(2) 地域公共交通計画作成の現況調査・分析手法について

<質疑応答>

番号	委員	事務局
(1) -1	学生アンケートについて、名護市内の学校を対象としているが、名護市内から他の地域の学校に通う方についても、多くはないと思うが検討してほしい。(小橋川委員)	沖縄県の通学実態調査より名護市外への通学状況について把握可能か整理し、一定数移動がある場合等は、別途アンケート調査の実施も考えている。

議題(3) 名護市街地及び周辺エリアコミュニティバス実証実験について

番号	委員	事務局
(3) -1	イベントに関する情報共有。 期間中は観光協会青年部（STEP）がコミュニティバスを活用することで、観光事業者の支援にもなり、市民の方にも市内の観光施設や飲食店を使ってもらえるような企画（STEP グルメ&サービスパス）がある。また、利用者にはアンケート調査（コミュニティバスの利用有無、継続への要望等）も予定している。 9/1 の開始に向けて、広報も実施している。コミュニティバスの運行開始後にも様々な方に利用してほしい。 コミュニティバスの運行ルートについて、現在のルート（特に南北線）設定で市民や観光客に利用してもらえるかは疑問である。コミュニティバスの利用状況やバスに乗車するまでの動線にも注視していきたい。観光では、交通拠点からのタクシー利用も重要である。 （前田委員）	協議会での承認をもって、実証実験は 9/15 から運行開始予定である。
(3)-2	東西線右回り・左回り（名護バスターミナル）および南北線のダイヤについて、いずれも 10 時台・12 時台…と偶数時間帯になっているが、路線バスとの接続を考えると、どちらかは 11 時台・13 時台というようなダイヤにするとよいのではないか。2 時間に 1 本から 1 時間に 1 本にする方が接続しやすいのではないか。（喜屋武委員）	分かりやすい出発時間を意識して設定している。 利用者アンケートを通して、路線バスとの接続に関する意見も抽出されると考えられる。こうした意見を、今後のダイヤ設定や、地域公共交通計画作成の際の材料としていきたい。

議題(4) 久志地域公共交通実証実験事業(案)について

番号	委員	事務局
(4)-1	久志地域公共交通実証実験について運行予定日はいつか。(宮城委員、運天委員)	運行開始は10月を予定しており、具体的な日程は未定である。
(4)-2	久志地区と二見以北の実証実験は、両地域での実施であるか。 デマンド交通を利用して、久辺三区からわんさか大浦パークや久志診療所へ移動可能であるか。(湖城委員)	実証実験は、久志地区と二見以北の両地域で実施する。 デマンド交通に関して、事前予約が必要であるが、久辺三区内はフルデマンドであり、久辺三区外は3拠点（わんさか大浦パーク、久志支所、久志診療所）への移動が可能である。
(4)-3	その場合、わんさか大浦パークでのコミュニティバスへの接続について時間的な制限はあるのか。(湖城委員)	例えば、久辺三区内の方が、わんさか大浦パークにてコミュニティバスに乗り換えて名護市街地に向かう場合、デマンド交通は事前に予約することで運行時間内（8:30～17:00）において利用することができ、乗り換えの時刻に合わせてわんさか大浦パークでに向かっていただければ、コミュニティバスへ乗り換えが可能である。このようにして、目的に沿った使い方をいただければと思っている。
(4)-4	乗合運行のため、乗り継ぎの時間等の理解が可能かどうか疑問である。(湖城委員)	住民説明会等での周知が重要と考えている。特に久辺三区の方々にはデマンド交通の事前登録も必要になるため、久辺三区の方々や二見以北の方々への周知を実施することで、利用の促進に繋げたい。 久志地域の公共交通実証実験について、久志地区の区長会へ出向いて事前に説明している。実証実験の実施期間は限られているため、

		区長会からも前向きに進めてほしいという意見があった。
(4)-5	デマンド交通の事業者選定までのスケジュールについて決定していることはあるか。(運天委員)	現在、事業者の入札手続きを進めているため改めて情報を共有する。
(4)-6	デマンド交通の運行が 17:00 までであると、コミュニティバスとの接続ができていないのではないかと。(小谷委員)	デマンド交通の運行は 8:30～17:00 までを予定している。イオンから有津行きの最終便のバスが 16:00 に出発し、わんさか大浦パークに 16:36 に着く予定になっている。デマンド交通の運行時間内に久辺三区内に戻れると想定している。
(4)-7	以下の 3 点を意識して、整理してほしい。 ①顕在化した移動(移動目的(買物、通院)、移動手段、移動頻度、属性など) 特に移動頻度で、検討すべき公共交通の形態(路線バス、デマンド交通、タクシーチケット配布など)は異なる。また、通院、高齢者の介護等の移動目的により、移動が必要となる曜日も異なる。 ②潜在的なニーズを把握してほしい。 ③新たな移動需要(新たに観光地の周遊を生み出せるかについて。) 観光客については、特に名護に宿泊した方に対してどのように周遊を促すのかを考えたい。また、路線バスやコミュニティバスの活用を考えてほしい。(神谷副会長)	顕在化した移動頻度は市民アンケートで把握している。 潜在的なニーズは、アンケート調査やヒアリング調査を検討する。観光周遊を生み出せるかについては、平成 29 年の基礎調査にてホテル宿泊者にアンケートを実施しておりその調査結果も活用できると考える。また、観光協会実施のアンケート調査も踏まえてニーズを把握していきたい。

<その他意見>

- ・ 多少の混雑等も考えられるため、ダイヤの接続に関しては多少の余裕があったほうがいいと考える。(小谷委員)

- 実証実験について、将来的には屋我地地域での実施もあればよいと考える。屋我地には多くの病院やひるぎ学園もある。ひるぎ学園については、送り迎えを親が行っていたりする。久志同様、交通状況は厳しい状況である。(大城委員)
- 名護市への来訪者がコミュニティバスをどのように知って、どのように移動しているのかなどを把握することも重要であるため、引き続き観察していきたい。(前田委員)